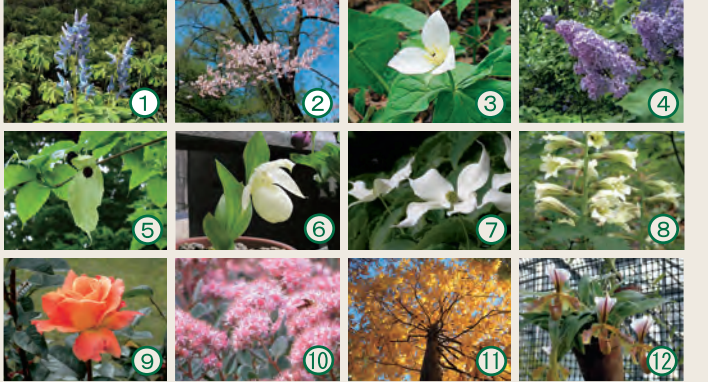
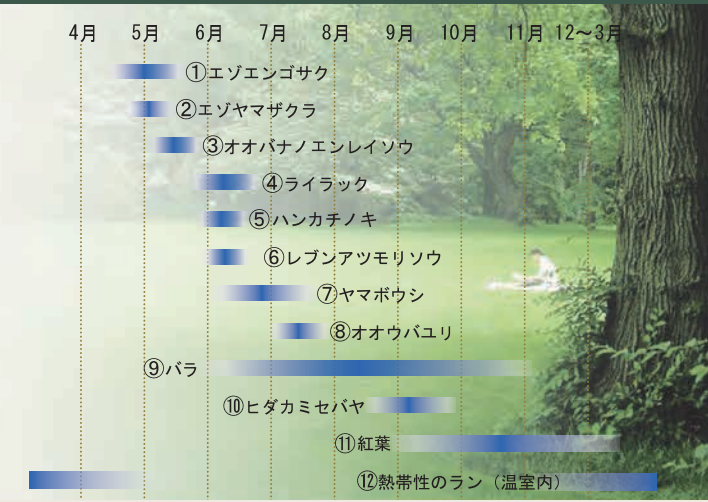


札幌駅から徒歩で約10分、ビルが建ち並ぶ街の中心部に「緑のオアシス」はあります。ひとたび足を踏み入れれば、そこは別世界。耳を澄ませば野鳥の声、緩やかな起伏に富む地形と豊かな水、そしてハルニレの巨木。そのひとつひとつが札幌の原始の姿を今に伝える貴重な場所となっています。

その一方で植物園は北海道大学の施設として、教育と研究、植物の系統保存の役割も果たしています。広さ13.3haの園内には、北海道の自生植物を中心に約4000種類の植物が育成されていて、展示のほか研究や種の保存にも利用されています。また博物館や北方民族資料室では、北海道の開拓や先住民族の生活文化に関する貴重な資料を見ることもできます。

春は雪解けとともに可憐な花々が一斉に咲き出し、夏に木々を吹き抜ける風は心地よく、秋には落ち葉を踏みしめて、冬の訪れを知ることができます。季節ごとに変わる植物園の姿をぜひお楽しみください。

花ごよみ



ご利用のご案内

夏期 4/29 ~ 11/3	冬期 11/4 ~ 4/28
【開園時間】 4/29~9/30 9:00~16:30* 10/1~11/3 9:00~16:00* *入園は30分前まで	【開館時間】 温室のみ開館 平日 10:00~15:30* 土曜 10:00~12:30* *入館は30分前まで
【休園日】 月曜日(祝日の場合は、翌日)	【休園日】 日曜・祝日、12/28~1/4
【入園料】 高校生以上 ¥420 (団体¥350) 小・中学生 ¥300 (団体¥240) *団体は30名以上 回数券(6枚) 高校生以上 ¥2220 小・中学生 ¥1620	【入園料】 小学生以上 ¥120

アクセス & マップ

JR札幌駅、地下鉄さっぽろ駅・大通駅からそれぞれ歩いて約10分。駐車場はありません。お近くの有料駐車場をご利用ください。



ご利用のお願いと注意

- | | |
|---|---|
| <p>お願い</p> <ul style="list-style-type: none"> 花、木、タネ、昆虫は大切な生物資源です 採取はやめましょう 運動用具、楽器、酒類の持ち込みできません ペットを連れて入ることはできません ゴミは分別してゴミ箱へ | <p>⚠️ ご注意下さい</p> <ul style="list-style-type: none"> 樹木の落枝に注意しましょう カラスやハチに注意しましょう カラスにエサを与えてはいけません ご迷惑をおかけしますが作業中の機械、芝刈機には近づかないで下さい |
|---|---|
- 植物園の美しさをみんなで守っています ご協力お願いします

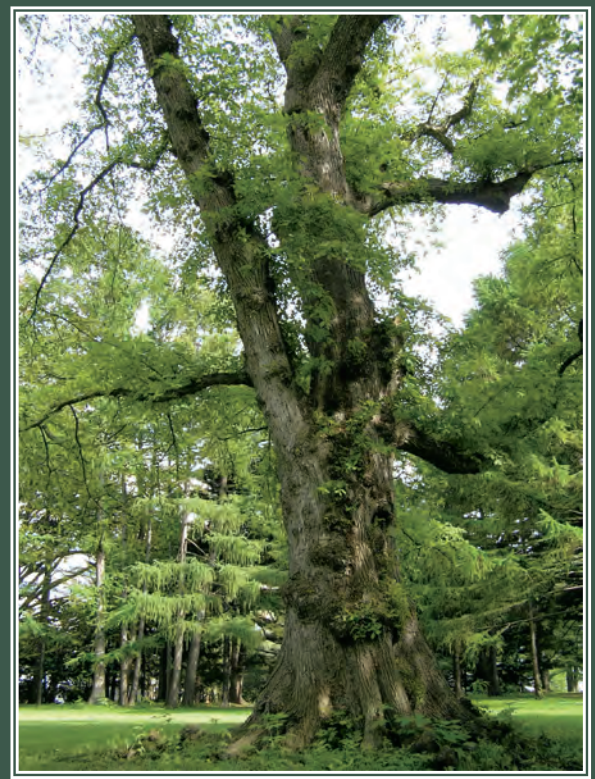
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

〒060-0003 札幌市中央区北3条西8丁目
 Tel : 011-221-0066 / Fax : 011-221-0664
 ☎ www.hokudai.ac.jp/fsc/bg/ ✉ hubg@fsc.hokudai.ac.jp
 2020. 4. 32000

日本語

北海道大学植物園

Botanic Garden, Hokkaido University



ハルニレ(英名: エルム 学名: Ulmus davidiana var. japonica)



D 北方民族植物標本園



東アジアの北方民族、ことにアイヌ、ウィルタ、ニブフの3民族が利用した約200種の植物を、衣(染織を含む)、食、住(用材、器具材、生活用品)、薬、祭礼・祈禱、狩猟などの利用内容とともに展示しています。これらの植物材料から作られた生活用具が北方民族資料室(A)に展示されていますので、あわせてご覧になることをおすすめします。

E 草本分科園

北海道の草原や道端などの低地に自生する草本植物を中心に、帰化・逸出植物を含めた約150種の多年生草本を展示しています。北海道で身近に見られる草花を知ることができます。



F バラ園



古い品種を中心に約20種(200株)のバラが、6月下旬から7月を中心に秋まで花を咲かせます。ツルバラや、北海道の花として知られるハマナスも見られます。

G 博物館・重要文化財群

北海道で最古の博物館です。建物やガラスケースは重要文化財に指定されています。レトロな館内には、世界で唯一のエゾオオカミの剥製や、南極観測で活躍した樺太犬タロの剥製、鳥類標本や北海道考古学資料などを展示しています。



また博物館の周囲にある博物館事務所、博物館倉庫、便所などの建物群も、明治時代の歴史的建造物として重要文化財に指定されています。それぞれの建物の建築様式や設計者が異なります(詳細は看板をご覧ください)。



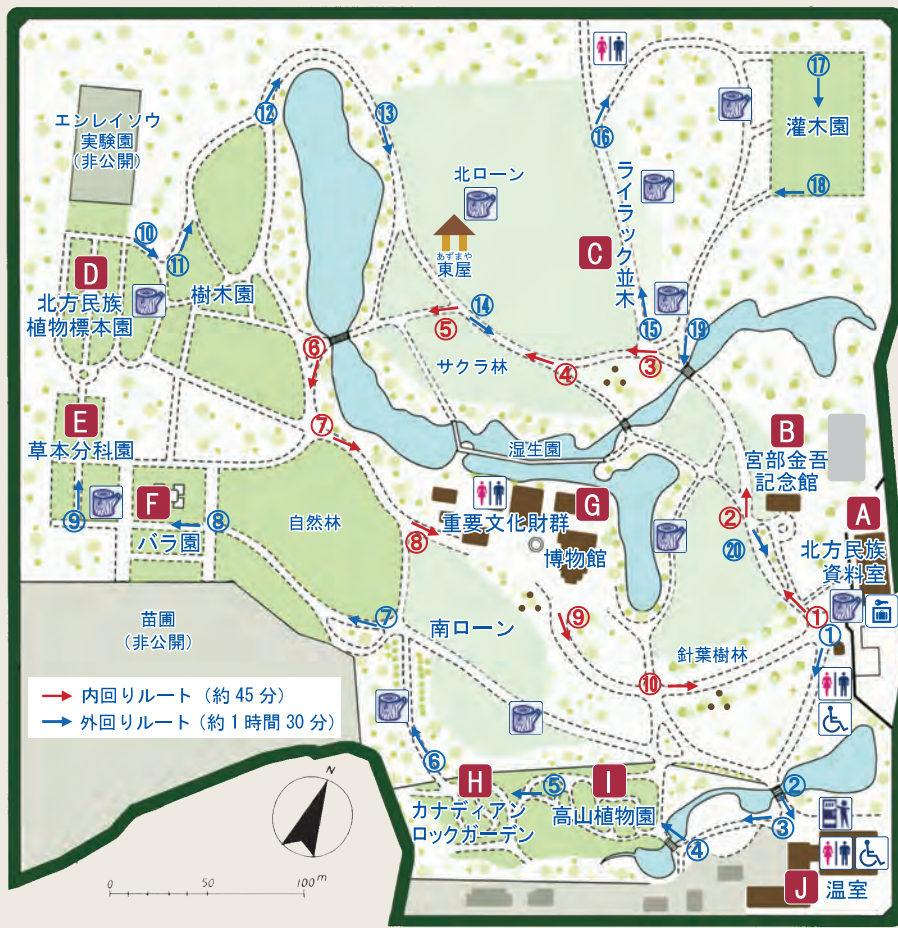
エゾオオカミの剥製

北大植物園とは…



ウィリアム・スミス・クラーク博士

植物園は石狩川の支流・豊平川の扇状地の上に位置し、大正の終わり頃までは各所で泉がわき出る地味豊かな場所でした。園内には約1000年前の竪穴式住居跡のほか、開園以前の自然地形とともに、原生林の面影を残すハルニレやイタヤカエデ、ミズナラ、ハンノキ、ドロノキなどからなる落葉広葉樹林が残っています。



- 🚰 お手洗い
- ♿ 多目的トイレ
- 🏠 竪穴式住居跡
- 🪑 丸太ベンチ
- 🏠 コインロッカー
- 📄 自動販売機

H カナディアンロックガーデン

高山植物園の隣、カナディアンロックガーデンは、カナダのプリティッシュコロンビア大学植物園との協定を記念して平成13年にオープンしました。北米大陸の野生植物約150種が見られます。



シスキュー・レウイシア

ブルー・ベル

C ライラック並木

札幌市の花でもあるライラックの並木です。アジアやヨーロッパの原種や品種、約40株が植えられています。見頃は5月下旬から6月中旬です。



B 宮部金吾記念館と札幌最古のライラック



植物園創始者、初代園長で文化勲章受賞者でもある宮部博士の遺品を展示しています。記念館の正面左には、スミス女学校(現北星学園)の創始者サラ・C・スミス女史がアメリカから持参したとされる札幌最古のライラックがあります。

A 北方民族資料室(管理棟2階)

北海道の先住民族(アイヌ・ウィルタなど)の生活文化資料を展示しています。これらの資料は、北海道開拓期から昭和初期に収集された貴重なものです。



J 温室

A棟には熱帯雨林室・シダ室・パイナップル科植物室などが、B棟には多肉植物室・ラン室があり、生態や分類別に世界各地の植物が見られます。



I 高山植物園

大雪山系トムラウシ山8合目を模した高山植物園は、昭和13年にオープンしたもので、国内屈指のロックガーデンです。チングルマやミヤマオダマキ、シナノキンバイ、キンロバイなど、北海道で見られる高山植物を中心に約600種が5月中旬から次々花を咲かせます。



博物館とともに札幌農学校に移管され、のちに初代園長となる宮部金吾が計画・設計をし、明治19年(1886)、植物園は開園しました。近代的植物園として我が国で初めて造られたもので、日本で2番目に古い植物園です。北海道に導入する外国産樹種の試験・頒布(はんぷ)も行っていました。



初代園長 宮部金吾博士